



ちょっと面倒な辺を含む三角形の解法の確認

★ ちょっと面倒な問題を、見方を変えて考えてみよう

「△ABCにおいて、 $b=2$ 、 $c=\sqrt{3}+1$ 、 $A=60^\circ$ のとき、 a 、 B 、 C を求めよ。」

といったように、辺の長さがルートを含む足し算引き算の形で表されている問題について考えてみよう。

正弦定理や余弦定理を用いた解答（教科書の解き方）

余弦定理により

$$a^2 = 2^2 + (\sqrt{3}+1)^2 - 2 \cdot 2 \cdot (\sqrt{3}+1) \cos 60^\circ = 6$$

$$a > 0 \text{ であるから } a = \sqrt{6}$$

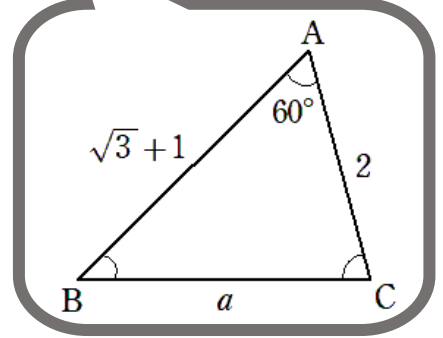
余弦定理により

面倒くさそうな辺の向かいは避ける

$$\cos B = \frac{(\sqrt{3}+1)^2 + (\sqrt{6})^2 - 2^2}{2 \cdot (\sqrt{3}+1) \cdot \sqrt{6}} = \frac{2(3+\sqrt{3})}{2\sqrt{6}(\sqrt{3}+1)} = \frac{\sqrt{3}(\sqrt{3}+1)}{\sqrt{6}(\sqrt{3}+1)} = \frac{1}{\sqrt{2}}$$

$$\text{ゆえに } B = 45^\circ$$

$$\text{よって } C = 180^\circ - (60^\circ + 45^\circ) = 75^\circ$$



正弦定理で解いても良い
(ただし解の大きさの吟味が必要)

有理化で求めても良い

と、解くのが普通であるが、ちょっと面倒な辺の向かいの頂点から垂線を補助線として引いた解き方を紹介しよう。

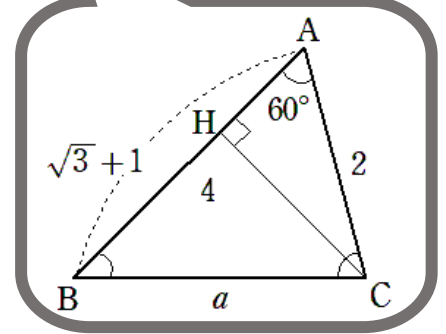
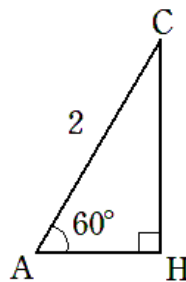
2つの三角形で比を用いた解き方

△ACHに注目すると

$$\angle CAH = 60^\circ, \angle AHC = 90^\circ \text{ なので}$$

$$AH : CA : HC = 1 : 2 : \sqrt{3} \text{ の直角三角形である}$$

$$\text{ゆえに } \angle ACH = 30^\circ, AH = 1, HC = \sqrt{3}$$



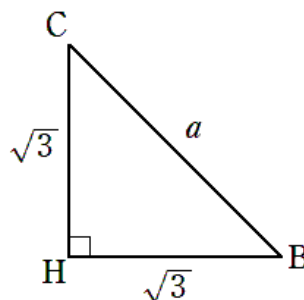
$$\text{ここで } AB = AH + HB \text{ であるから } HB = AB - AH = \sqrt{3} + 1 - 1 = \sqrt{3}$$

△CBHに注目すると

$$\text{直角二等辺三角形であるから } HC : HB : CB = 1 : 1 : \sqrt{2}$$

$$\text{ゆえに } BC = a = \sqrt{3} \cdot \sqrt{2} = \sqrt{6}, \angle HBC = \angle HCB = 45^\circ$$

$$\text{したがって } \angle C = \angle ACH + \angle HCB = 30^\circ + 45^\circ = 75^\circ$$



「 $\triangle ABC$ において、 $a=2\sqrt{3}$ 、 $c=3-\sqrt{3}$ 、 $B=120^\circ$ のとき、 b 、 A 、 C を求めよ。」

2つの三角形で比を用いた解き方

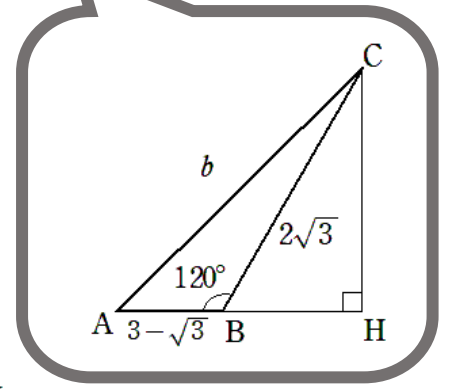
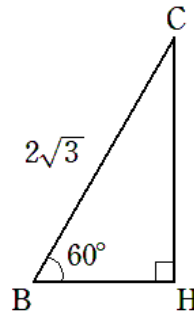
ABを延長してCから垂線を下ろし交点をHとする

$\angle CBH = 180^\circ - 120^\circ = 60^\circ$ なので $\triangle BCH$ に注目すると

$\angle CAH = 60^\circ$ 、 $\angle AHC = 90^\circ$ なので

HB:BC:CH=1:2: $\sqrt{3}$ の直角三角形である

ゆえに $\angle BCH = 30^\circ$ 、 $BH = \sqrt{3}$ 、 $CH = 3$

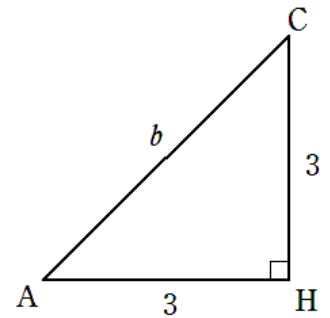


ここで $AB+BH=AH$ であるから $AH=AB+BH=3-\sqrt{3}+\sqrt{3}=3$

$\triangle ACH$ に注目すると 直角二等辺三角形であるから $AH:HC:CA=1:1:\sqrt{2}$

ゆえに $AC=b=3\cdot\sqrt{2}=3\sqrt{2}$ 、 $\angle HAC = \angle HCA = 45^\circ$

したがって $\angle C = \angle ACH - \angle HCB = 45^\circ - 30^\circ = 15^\circ$



ただし、3辺のみが与えられたときは注意が必要！

「 $\triangle ABC$ において、 $a=\sqrt{2}$ 、 $b=2$ 、 $c=\sqrt{3}-1$ のとき、 A 、 B 、 C を求めよ。」

2つの三角形で比を用いた解き方

$c < a < b$ であり $b^2 > a^2 + c^2$ であるから $\angle B$ が鈍角の鈍角三角形

ABを延長してCから垂線を下ろし交点をHとする

ここで $AB=\sqrt{3}-1$ であるから $AH=\sqrt{3}$ 、 $BH=1$ と仮定すると

$\triangle BCH$ で三平方の定理により

$$HC^2 = BC^2 - BH^2 = 2 - 1 = 1 \quad HC > 0 \text{ より } HC = 1$$

直角二等辺三角形であるから $\angle HBC = \angle HCB = 45^\circ$

ゆえに $\angle ABC = 180^\circ - 45^\circ = 135^\circ$

$HC:CA:AH=1:2:\sqrt{3}$ の直角三角形である

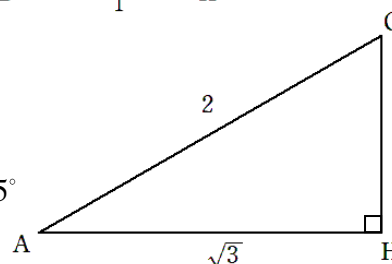
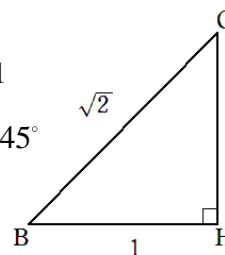
ゆえに $\angle A = 30^\circ$ 、 $\angle ACH = 60^\circ$

したがって $\angle C = \angle ACH - \angle BCH = 60^\circ - 45^\circ = 15^\circ$

このとき

$$2^2 + (\sqrt{3}-1)^2 - 2 \cdot 2 \cdot (\sqrt{3}-1) \cdot \cos 30^\circ = 4 + 4 - 2\sqrt{3} - 2 \cdot 2 \cdot (\sqrt{3}-1) \cdot \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$= 4 + 4 - 2\sqrt{3} - 6 + 2\sqrt{3} = 2 = (\sqrt{2})^2 \quad \text{となり条件を満たす}$$



これでは、どのような直角三角形か特定できない
⇒本来は余弦定理から解く

$\sqrt{3}-1$ の組合せから推測して辺の長さを仮定してみる